

別紙

福祉サービス第三者評価の結果

1 評価機関

名称： 一般社団法人 しなの福祉教育総研	所在地： 長野県上田市真田町 6918 番地 1
評価実施期間： 令和元年 7 月 1 日から令和元年 9 月 20 日	
評価調査者（評価調査者養成研修修了者番号を記載） 050431 B18054 B18052	

2 福祉サービス事業者情報（令和元年 7 月現在）

事業所名： （施設名）佐久穂町立八千穂保育園	種別： 保育所	
代表者氏名： 佐久穂町長 佐々木 勝 （管理者氏名） 園長 小池 洋子	定員（利用人数）：170名（67名）	
設置主体：佐久穂町 経営主体：佐久穂町	開設（指定）年月日： 昭和 42年11月1日	
所在地：〒384-0701 長野県南佐久郡佐久穂町大字畑 660		
電話番号： 0267-88-2252	FAX 番号： 0267-88-2010	
ホームページアドレス http://www.town.sakuho.nagano.jp/		
職員数	常勤職員： 16 名 非常勤職員 2 名	
専門職員	（専門職の名称） 園長 1 名 主任保育士 1 名 保育士 12 名 調理員 2 名	
施設・設備 の概要	（居室数） 乳児室 1 室 ほふく室 1 室 保育室 8 室 調理室 1 室 事務室 1 室	（設備等） 遊戯室 1 室 便所 3 室 資料室 1 室 野外遊戯場（庭園）
保育時間	7：30～19：00	

3 理念・基本方針

<p>【保育理念】 恵まれた自然環境を生かし、未来の町を担う、心豊かな人づくりをめざします。 ・健全な心身の発達を図り生きる力の基礎を培います。 ・家庭や地域社会との連携を図りともに子育てをします。</p> <p>【基本方針】 ・子どもの思いを温かく受け入れ、意欲的に活動しようとする気持ちがもてるようにする。 ・子どもを中心に捉え家庭と密に連携し、安心して子育てができるようにする。</p>
--

【八千穂保育園の目標】

元気で明るい子ども

- ・挨拶のできる子ども
- ・仲良く遊べる子ども
- ・食べることを楽しむ子ども

4 福祉サービス事業者の特徴的な取り組み

【佐久穂町の特徴】

佐久穂町は平成17年に佐久町と八千穂村が合併し両町村の文字をとって命名されました。千曲川を挟んで左右に広がる地形は西に八ヶ岳、東に茂来山を望み日本一の群生といわれる白樺林や神秘的な駒出池など豊かな自然に囲まれた山麓の町で観光名所が多数あります。豊富な水や高い晴天率、冷涼な気候を生かした若手農業者の活躍なども注目を集めています。約11,000人という人口はお互いの顔が見える町として住民の温かい人柄や支え合いのコミュニティが息づき小中一貫教育など豊かな心を育む教育体制や地域ぐるみの子育て支援が充実するなど快適で安心な暮らしができる町です。

【子育て支援・保育・学校教育の特徴】

○佐久穂町では妊娠期から子育て期にわたり、子育てが楽しいと感じられるよう切れ目のない支援が行われています。医療機関の充実を始め、18歳未満の児童・生徒が安心して遊べる場所「さくほっ子」は「居心地のいい場所・交流の場所・相談の場所」として乳児から子育て支援の拠点施設となっています。同じ場所で運営されている児童館・学童クラブも子どもや保護者にとって安全で安心できる居場所です。佐久穂町総合計画のもと、子ども子育て支援計画が地域の福祉計画の中に位置付き社会全体で支援する施策が推進されています。

○3つの町立保育園は信州やまほいく普及型認定園として、豊かな自然環境や地域資源を積極的に取り入れた保育を通し、四季を感じる感性や集中力、自己肯定感を育てています。

○学校教育では特色ある教育として「小中一貫教育」「英語教育」「キャリア教育」を挙げ佐久穂教育と称し実践しています。

子どもたちを「地元“佐久穂”を愛し将来地元に戻りたい、役に立ちたい」と思えるような人間に育てたいと願い、地元の企業と協力して職業体験を行ったり、授業を行ったりしています。

また、英語カリキュラムを追加することを文部科学省に申請して認可をいただいています。他の教科とのバランスを考慮しながら英語教育の時間を多めにとっており小学校1年生から中1まで耳から英語を覚えるようにしている教育は県内でもほかに例を見ない取り組みです。

【保育園の特徴】

園舎のまわりには豊かな自然が広がり老人福祉センターと隣接する静かな保育園です。園児は野山の散歩に出かけ小動物や植物に触れ様々な自然体験を楽しんでいます。園庭には子どもが体を使って楽しんだり爽快感を味わうことができるような最新遊具が整ったりと、元気に活動する子どもたちの姿が見られました。

また佐久穂町で取り組む「オンリーワン支援事業」の一環として配慮が必要な子どもさんや困り感を持つ子どもさんが集団生活の場で安心して過ごせるよう個別計画を立てて保育をしています。町の保健師や東信教育事務所の指導主事、小諸養護学校等専門機関と連携し丁寧な支援会議を行ったり担任のほかに補助的職員も配置されたりと子どもさんにも保護者にも丁寧で優しい保育環境が整えられています。

延長保育や一時預かり保育事業も行い働く保護者や子どもさんが安心できる居場所を作っています。かるがもクラブという子育て応援団もあり来入園予定児が園での生活を経験して入園の不安を取り除き入園を楽しみに待てるよう支援しています。

その他、高齢者を始めとする各種交流会も積極的に取り入れ地域の方との触れ合いや関りを大切にしています。

5 第三者評価の受審状況

受審回数（前回の受審時期）	初 回
---------------	-----

6 評価結果総評（利用者調査結果を含む。）

◇特に良いと思う点

○子どもの主体的な活動を促し子どもが自発的・意欲的に関わられるような環境が構成されていました。

・散歩や戸外活動（自然型保育）を意識的に取り入れて、身近な小動物や木の実などに触れて子どもの興味や関心を引き出すことでいろいろな活動が主体的に広がるよう保育が実践されていました。

・子どもが解放感を味わいながら思い切り体を動かして活動できるよう園庭の遊具や用具が配置されていました。固定遊具だけではなく戸外で活発に動き回る合間にふと目をとめたり体を休めたりできるよう園庭には子どもの目の高さに合わせた花壇が整備され花々の配置は一番外側には子どもが手に取って触れられる花が植えられるなど新たな発見や探求心を促すべく、保育士ならではの配慮と工夫がみられました。園長先生を始めとし保育士等自らが豊かな感性を持ち子どものちょっとした好奇心を見逃さずに保育に生かすことが子どもの安定や安らぎにつながることを示されていました。

・年齢や発達異なる多くの子どもたちが安全に安定して活動ができるよう、園庭の使い方に工夫がみられました。園庭を走り回る活発な以上児との活動の違いを配慮して、未満児専用の砂場も計画されていました。

・散歩などで収穫した自然物や絵本や実体験などを通してイメージしたことをすぐに表現できるよう工夫されていました。絵の具や制作に必要な道具が自由に使えるコーナーがあり、実際に子どもたちの作品は想像力に溢れダイナミックな表現が多くみられました。

○保育士が子どもの発達状況や個人差を理解し、一人ひとりが意欲をもって活動するための適切な援助がされています。子どもの様子がある時は見守り、またある時は必要な支援をし、総合的な振り返りをしながら保育園で育ててほしい姿を見据えた活動計画が立案されています。

○地域とのつながりが多くみられます。

・よもぎ団子や繭玉作り、季節の伝統行事などを通して高齢者など地域の方との交流が盛んに行われています。

○保育所の特性を生かした地域子育て支援がおこなわれていました。

・保育士等が保護者と連携して子どもの育ちを支える視点に立ち子どもの育ちを保護者と共に喜び合うことを大切にしていました。家庭と保育園が理解し合いよりよい関係を築くために保育の意図を丁寧に説明したり保護者との対話を大切にしたりしていました。

◇特に改善する必要があると思う点

○多くの研修に参加し自己研鑽に努める姿勢が確認されました。職員全体の共通理解や協働性をより一層高めるために、職場全体において職員が一緒に（一堂に）話し合いを持つ機会を定期的にもたれることが更に期待されます。

○全国的なニュースで子どもに関わる悲惨な情報を目にする機会が増えました。それに伴い保護者の不安も大きくなっています。重大事故防止のための訓練や不審者侵入を防ぐための工夫などをより詳細に保護者に伝えていくとよいでしょう。

7 事業評価の結果（詳細）と講評

共通評価項目（別添1）

内容評価項目（別添2）

8 利用者調査の結果

アンケート方式（別添3-1）

9 第三者評価結果に対する福祉サービス事業者のコメント（別添4）